



SDM ニュース

SDM NEWS



東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所 視察

9

2010年 月号

行事予定

2010年10月4日(月)10:00～15:15
スイス連邦工科大学(ETH) 特別講義
 @日吉キャンパス 協生館
 3階C3S10教室(CDFルーム)
 題目:企業群のダイナミクス
 言語:英語
 受講:事前登録制
 参加費:無料
<http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/09/03-113910.html>

2010年10月5日(火)13:30～16:30
「慶應システム・マネジメント講座」特別講演
 @ベルサール九段 4F ROOM4
 定員:100名(先着順、事前登録制)
 参加費:無料
 題目:「大規模・複雑システムをいかに設計・開発するか」前野 隆司 教授
 「ハイブリッドカー『プリウス』をいかにシステムとして開発してきたのか」佐々木 正一 教授
<http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/09/03-104112.html>

2010年10月12日(火)9:00～17:00
Niels Malotiaux氏 特別講義
 @日吉キャンパス 協生館3階 C3N14
 題目:Predictable Projects プロジェクトの予測
 言語:英語
 受講:事前登録制
 参加費:無料
<http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/09/17-162714.html>

2010年
11月11日～12日、30日～12月1日
第2回プロジェクトリーダー育成講座
 @日吉キャンパス 協生館
 3ページの「お知らせ」もご覧ください。
<http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/09/27-122234.html>

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。
http://www.keio.ac.jp/ja/event/201009/201009_index.html

通算22号 2010年9月発行

SDM
 System Design and Management

研究所長兼研究科委員長からのごあいさつ

日本社会の活力を取り戻すためにも海外への展開が重要視される昨今、SDMにおいても国際化が様々な形で進んでいます。

前号でご報告した国際会議GLOGIFT2010では、この会議の中核であるインド工業大学と当研究科との交流の端緒を開くことができ、またシンガポール国立大学でシステムズエンジニアリングの中心として活躍するThong Ngee Goh教授、および株式会社インターネット総合研究所所長藤原洋博士による基調講演では、国境を超えた起業家精神を訴えるなど、重要な示唆に富んでいました。

当研究科においては、昨年からの連携を実施しているオランダ・デルフト工科大学との交換留学生枠が従来の3名から6名(本年度5名実績)に増え、スイス連邦工科大学、イタリア・ミラノ工科大学、フランス・INSAトゥールーズ校とも交流協定が整いました。留学を積極的に希望する学生も多く、当研究科の目指す国際化が加速されています。

SDM研究所長兼SDM研究科委員長 狼 嘉彰



最近のニュース

TOPIC 1 藤崎一郎駐米大使特別講演会

2010年8月4日(水)、駐米大使として赴任して2年目となる藤崎一郎大使(塾員)を迎え、「新たな日米協力を目指して」と題した特別講演会が、日吉キャンパス協生館3階 C3S10 (CDFルーム)にて開催された。

藤崎大使は、公務を遂行するとともに、特に幹線の輸送システムや原子力発電システムなど日本が世界に誇る技術分野を通じて、新たな日米の連携に積極的に取り組んでいる方である。このため、講演会には、多くの企業関係者、他大学の研究者、学生が参加し、活発な質疑が交わされた。

藤崎大使から、いまの日本の実力や魅力について分かりやすい説明があり、また日本企業は米国で十分躍進する可能性を秘めており、そのためにも日本の若い人たちが英語で渡りあうコミュニケーション能力を一層磨くことが大切だと強調された。アメリカの政府要人に英語で説明される場面も再現され、大使の臨場感溢れる説明に参加者はメモを取りながら真剣な眼差しで聞き入っていた。

同時に藤崎大使は、日米安保条約が改定されて50年の節目を迎えるいまこそ、日米同盟の絆を揺るぎないものにすべきだと述べられ、そのためにも、普天間基地の移転問題は最優先で解決すべき課題であり、あわせて核開発に走るイラン問題をめぐる日米の連携が重要だと指摘された。



藤崎 一郎 駐米大使



講演風景

TOPIC 2 東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所 視察



林副所長によるレクチャー



説明を受ける学生



説明を受ける日比谷教授 他

2010年8月11日、東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所(新潟県)を狼嘉彰研究科委員長を始めとする教職員および学生33名で視察した。東京電力株式会社は藤本副社長によるSDM特別講義での講演、学生の派遣など当研究科と縁が深い。今回の視察も同社の多大なるご尽力のもと実現した。当日は、横村所

長の挨拶に始まり、発電所の歴史および地震後の現況についての説明を林副所長より受けた。その後サービスホールにて展示物を利用した発電所の構造および安全設計についてのレクチャー等を受けた後、現在停止している4号機の内部の見学を行った。中央操作室を始めとする発電所内の設備の他、運転中は立ち

入ることが出来ない原子炉格納容器内など通常では許可されないエリアも含め立ち入った。参加者は非常に活発な質問を行い、原子力発電所という日本有数の大規模な技術システムの現状および着実に進む地震後の復旧状況などについて理解を深めた。

TOPIC 3 ALPS Workshop3および懇親会



神武准教授の講義



講義を熱心に聞く学生



春山教授の講義



懇親会にて

SDM研究科の2010年度農林中央金庫寄附講座デザインプロジェクトALPSの第3回ワークショップが8月6日、7日に開催された。

今回は、17の学生グループが中間発表をおこない、「安全・安心なシステムデザイン」に関連する新しいサービスや製品のアイデアを英語でスピーチした。

また、今年度のテーマである「安全・安心」を実現するには、複雑なシステムが故障せずに動くことが大切であるので、故障モードとその影響の解析(FMEA, Failure Mode and Effect Analysis) や、複雑なシステムのタスク間依存度分析や手順最適化の手法(DSM, Design Structure Matrix) についての講義

が行われた。また、ユーザーインターフェースの概念、ラピッドプロトタイピングなどについての説明もあり、盛りだくさんの内容であった。

ALPS終了後の懇親会は、学生ボランティアによって企画され、参加者が踊るイベントもあり、大いに盛り上がった。

TOPIC 4 SDM研究科説明会



個別相談を受ける手嶋教授

来年度の受験生を対象としたSDM研究科説明会が、8月7日に日吉キャンパスで開催された。今年度3回目。今回も社会人の方々が多く参加できるよう土曜日に設定、35名の受験希望者が集まった。3回の説明会で、合計125名の参加（うち社会人比率約4割）となった。

5月の説明会と同様、並行して開催されていた



個別相談中の小木教授

プロジェクト科目ALPSの講師陣から、Stanford大学のKurt Beiter先生らが応援に駆けつけて、ALPSの魅力語り、春山真一郎教授からALPS収録ビデオの一部を流して授業風景を具体的に紹介した。また、SDMで習得したスキルを転職面接に活かした社会人在校生の経験を語るビデオを見せ、受験生の視点に立った説明を重視した。



当麻准教授による説明

参加後の感想を聞いたアンケート(回収率83%)では、96%から満足(非常に満足62%、概ね満足34%)との回答を得て、「SDMの魅力が多く伝わった」、「生の声も紹介して下さったのでわかり易かった」、「教員と直接話ができ点がよかった」など好評なコメントを得ることができた。

TOPIC 5 プロジェクトマネジメント教育を推進する米国の大学との連携を探る



ステューブンス工科大学Poli教授

世界の大規模プロジェクトの獲得で、日系企業が苦戦している。優れたリーダーが不足してきたのは、これまでビジネスの現場で育ててきた人材育成では、世の中のスピードに追いつけないからだ。より早い段階の大学・大学院で人材育成することが急務だ。

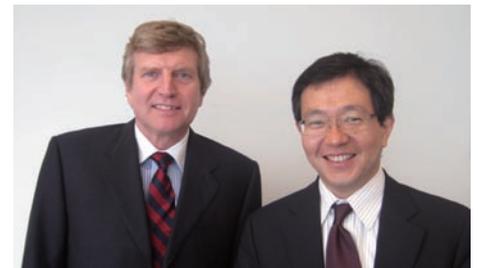
当麻哲哉准教授はこの夏、プロジェクトマネジメント教育における海外の大学との連携を探りに乗り出した。大学・大学院でのプロジェクトマネジメン



ミネソタ・セントメリーズ大学

ト教育は、米国の大学が圧倒的に進んでいる。米国に本部を置く「Project Management Institute」(PMI)の活動成果と言える。当麻准教授が日本支部の理事を務めるPMIは、SDMコア科目の教科書で、今や世界標準となりつつある「Project Management Body of Knowledge」(PMBOK)を発行している。

今回訪問した大学は、PMIの組織の中にある「Global Accreditation Center」(GAC)がプロ



ボストン大学Warburton教授

ジェクトマネジメント教育の質を保証する公認の指定校で、Stevens Institute of Technology (ニュージャージー州)、Saint Mary's University of Minnesota (ミネソタ州)、Boston University (マサチューセッツ州)の3校だ。当麻准教授は、それらの大学が、どのようなカリキュラムを描いてGAC認定を受けたのか、実際の認定活動に従事した教員からヒアリングし、今後の教員や学生の相互の交流連携についての口火を切ってきた。

お知らせ 第2回プロジェクトリーダー育成講座



プロジェクトリーダー育成講座の外部講師3名(左:高橋良之氏



中:古屋邦彦氏 右:岩下貞氏)

昨年第1回を開催し好評を得た「プロジェクトリーダー育成講座」が2年目にグレードアップして再び開催される。

今回改善されたところは、①合宿制を取り入れて、密度の濃い講義と演習を集中して行うことにより、開催を昨年より短縮し4日間(1泊2日の合宿

を2回)とした点、②2回の合宿の間にインターバルを取ることで、職場に戻って実践する機会を与えた点、③SDMの方法論を具体的に取り入れ、単なる監督・管理のプロジェクトマネジメントではなく、現場を含めたプロジェクトの全体像を見極め、的確な判断と指示を実行するシステムズ・エ



ンジニアリングとの融合を深めた点だ。

前半のセッションは11月11日(木)～12日(金)、後半が11月30日(火)～12月1日(水)となっている。9月末から募集をかける。定員最大25名。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/09/27-122234.html>

研究室紹介

ヒューマンシステムデザイン研究室
(Human System Design Laboratory)

前野 隆司 教授

キヤノン株式会社研究員、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員、ハーバード大学客員教授、慶應義塾大学理工学部教授等を経て現職。

専門分野: システムデザイン・マネジメント学、ロボティクス、科学技術論

E-mail: maeno@sdm.keio.ac.jp



ヒューマンラボとは?

私たちヒューマンラボ(ヒューマンシステムデザイン研究室)では、よりよい人間社会の実現を目指して、人間にかかわるあらゆるシステムを対象に研究活動を行なっています。以下に研究分野の例を記しますが、研究テーマはこれらに限定されません。現代のソクラテスやダ・ヴィンチを目指し、科学技術から哲学・アートまで、あらゆる先端分野の研究をシステムという視点から学問分野横断的に行なっています。学生、教員、研究員、あわせて30名以上。科学者・技術者からコンサルタント、経営者まで、多様な人々のディスカッションに基づき、様々な問題を解決します。土曜の午後(深夜まで)ゼミを行なっていますので、ご興味のある方はお気軽にご参加ください。

1 コミュニティー・組織・ビジネスシステムのデザイン

協調的環境配慮行動モデル、サステナブルなNPOのあり方、公共団体の地域間連携方法、新たな地域連携農業システムの構造、企業体の理念浸透施策、経営者・従業員・社会の利益と幸福の共有方法、全体整合を目指す新たなマーケティング手法の開発など、よりよい人間社会のあり方に関する様々な研究を行なっています。学問基盤は、システム工学、社会心理学、社会学など。

2 ヒューマン・マシンインタフェースシステムのデザイン

ロボティクスと触覚技術をベースに、コミュニケーションロボットのデザイン、アクティブタッチパネルのデザイン、コンシューマプロダクトの触感デザイン、バリアフリーシステムのデザインなど、様々なヒューマン・マシンインタフェースシステムのデザインを行なっています。学問基盤は理工学、心理学、芸術学、倫理学など。

3 教育・学習・成長システムのデザイン

マルチディシプリナリ(multidisciplinary、学問分野横断的)な教育やコンサルティングをシステムック(systemic)且つシステムティック(systematic)に行なうにはいかによいのか? というシステムデザイン・マネジメント学の研究を行なっています。学問基盤は教育工学、システム工学、システム科学、システム哲学、システム思考。

4 自己システムのデザイン

「自己」「意識」「クオリア」とは何か。「幸福」「ハッピー」「欲求」「面白さ」「協生」「至福」「悟り」とは何か。「教育」「学習」「成長」「人生」とは何か? これらの第一人称的(且つ第三人称的)な課題に、学問分野横断的に取り組んでいます。学問基盤はシステムデザイン・マネジメント学、心の哲学、倫理学、社会学、心理学、脳科学など。

5 これから行ないたい研究分野

南北問題、環境問題、安心・安全の問題など、人類が直面するグローバルイシューを解決するために、国際平和システムのデザイン、文明・文化システムのデザイン、国際政治システムのデザイン、宗教共生システムのデザイン、アートシステム(音楽、美術、文芸、建築、工芸など)のデザインなど、あらゆる課題を相互に関連するシステムの問題と捉え、俯瞰的な視点から研究していきたいと考えています。

学生・研究員・共同研究者募集中!

大きな夢や理想を「おめでたい(楽観的すぎる)」と批判するのではなく、「今の日本や世界を変革したい」「環境共生・安全・平和世界を構築したい」といった大きなビジョンの具現化を志すみなさん、いっしょに研究・活動しませんか!?



協生館1階での集合写真



東京工業大学との交流ゼミの様子



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館

Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

* Fax や E-mail での連絡の際には、お手数ですが Subject の先頭に「SDM 研究所」とお書きください。

SDM
System Design and Management